

日本精神保健看護学会 The Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing	ニュースレター 第31号 平成13年4月10日
	事務所：〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター (理事長 武井麻子) TEL：03-5814-5810 FAX：03-5814-5825

第11回 日本精神保健看護学会 総会・学術集会
 メインテーマ：リエゾン精神看護—その学的基盤と実践—
 ○開催日 2001年6月2日(土)・3日(日)
 ○会場 東京女子医科大学(東京都新宿区河田町8-1)
 ○学術集会大会長 東京女子医科大学看護学部 田中美恵子

＜プログラム＞

【第1日目：6月2日(土)】

12:00-13:20 受付
 13:20-13:30 オリエンテーション [弥生記念講堂]
 13:30-15:45 基調講演 [弥生記念講堂]

「リエゾン精神看護—その学的基盤と実践—」

講師 Pamela A. Minarik RN, MS, FAAN(エール大学)
 座長 川名 典子(聖路加国際病院)

15:45-16:15 休憩

16:15-18:15 ワークショップ
 [テーマ]

1) 体験グループ 2) 「再構成」の有効な活用方法 3) 精神看護学の教育展開—実習記録について考える— 4) 精神科事例検討会「女性に対して暴力行為を繰り返す精神科患者へのアプローチ」 5) リラクゼーションの体験学習 6) ナースによる心理教育グループの活用 7) 効果的なカンファレンスを運営するために 8) 精神科看護記録は開示に耐えられるか 9) ナースのためのストレスマネジメント	[医学部校舎・看護学部校舎] [担当責任者] 武井麻子、小宮敬子 池田明子、伊藤 文、柴田真紀 瀧川 薫、堀 源治 平澤久一、塚本淳智、千田敬子 五十嵐透子 羽山由美子、水野恵理子、下枝恵子、鈴木利枝 土屋 徹、中川幸子 柴田恭亮、堤由美子、他 福田紀子、片平好重
---	--

18:30-19:30 懇親会 佐藤記念館(東京女子医科大学内)

【第2日目：6月3日(日)】

9:00-12:30 一般演題発表：1題発表15分、討議15分 [医学部校舎・看護学部校舎]

第1群 リエゾン精神看護1

- 1 筋ジストロフィー患者のボランティアへの意識調査
 山元恵子(国立療養所宇多野病院)
- 2 複数の疾患を持ち人工呼吸器・透析に依存する患者への援助
 —患者の絶望感と医療者の無力感への対応—
 白井教子(北里大学病院)、他
- 3 無菌室で生活する造血器疾患患者の役割—看護場面の参加観察を通して—
 松田光信(岐阜県立看護大学)
- 4 出産直後の軽躁症状に関する研究
 長谷川雅美(三重大学医学部看護学科)、他
- 5 家族をめぐる葛藤から心理的適応問題を呈したがん患者との面接過程
 —リエゾン精神看護の探求—
 中嶋須磨子(関東中央病院)、他

- 6 入院中のクライアントの自殺を体験したナースへの援助
ーリエゾンーコンサルテーションの必要性ー

五十嵐透子（金沢大学医学部保健学科）

第2群 リエゾン精神看護2

- 1 看護婦の怒りの表出について
ー日常生活場面と対患者場面における「外向性／内向性」のパターンを中心にー
渋谷菜穂子（名古屋大学医学部保健学科）、他
- 2 看護活動で経験する快、不快感情の体験とその影響ー悲しみ、喜び、怒りの分析ー
水溪雅子（名古屋大学医学部保健学科）、他
- 3 内科病棟の看護婦が抱く精神的ケアの困難感とその対処行動について
ー臨床経験3～5年の看護婦のインタビューを通してー
池野優子（碧水会長谷川病院）、他
- 4 精神科病棟に勤務する看護職者のストレスとバーンアウト傾向との関連について(2)
山崎登志子（宮城大学看護学部看護学科）、他
- 5 ナースのためのアサーション（自己表現）トレーニングの効果
ーロールプレイ実習後アンケートの分析からー
野末聖香（横浜市立市民病院）、他
- 6 婦長の直面する困難感とリエゾンナースへのニーズ
龍野浩寿（北里研究所メディカルセンター病院）、他

第3群 精神障害者の事例に関するもの

- 1 巻き込みの強い強迫性障害の1事例を通してー陰性感情と患者ーナース間の関係性の変化ー
白藤恵里子（金沢大学医学部附属病院）、他
- 2 強迫性障害患者のQOL向上を目指してーレクリエーションを用いた試みー
根岸香織（京都大学医学部附属病院）、他
- 3 拒否を示す患者への看護者の関わりー2年間にわたる拒否を振り返ってー
白柿 綾（大阪市立大学看護短期大学部）
- 4 退行をおこし依存的な患者との関わりについてのー考察
佐藤陸恵（大阪赤十字病院）
- 5 解離性障害を併発した摂食障害患者の看護
ー母親への基本的信頼感の確立が不十分な事例よりー
橋本 茂（徳島大学医学部附属病院）
- 6 嚥下障害患者に対するアイスマッサージの試み（その1）
間 文彦（和歌山県立医科大学看護短期大学部）、他

第4群 入院体験と服薬に関するもの

- 1 精神障害者に対する服薬の専門技術の検討
森本智恵（東京女子医科大学病院）、他
- 2 服薬自己管理グループにおける援助技術について
渡部鏡子（神奈川県立衛生短期大学）、他
- 3 精神科急性期治療病棟における服薬教室の試み
青本さとみ（恵会愛会福間病院）
- 4 拘束体験に関する研究ー身体拘束を体験した患者と家族の語りー
松本佳子（埼玉県立精神保健総合センター）、他
- 5 一般病棟から精神科へ転入した患者の状況とセルフケアレベルの変化
ー転入時と退院時の看護記録からの分析ー
糸嶺一郎（杏林大学保健学部）、他
- 6 ケアの質の向上のためにーセルフケア表を用いた取り組みー
佐久間玉美（碧水会長谷川病院）、他

第5群 看護援助と依存症に関するもの

- 1 精神科閉鎖病棟で働く看護者の思い
瀬野佳代（国立看護大学校）
- 2 精神病院における看護者の患者観ー長期入院患者に対する看護行為の類型化をとおしてー
上野恭子（筑波大学医療技術短期大学部）、他
- 3 精神障害をもつ患者の健康な側面を成長させていく看護者の認識の特徴
小笠原広実（東京女子医科大学看護学部）
- 4 精神科病棟における看護職者が行う「声かけ」の構造と意味
平井元子（三重大学医学部附属病院）
- 5 精神科熟練看護婦のクリニカルスキルとその能力開発のための院内教育プログラムについて
荻野 雅（碧水会長谷川病院）、他

- 6 アルコール・薬物依存症患者との関係で生じる看護者の思い・感情の明確化
岡田佳詠（聖路加看護大学）
- 7 依存症専門病棟のない病院における薬物依存症者の入退院状況 その2
—1998年度から3年間の考察— 須藤藍子（光愛病院）、他

第6群 退院・地域に向けての援助に関するもの

- 1 精神障害者の退院後の生活設計に関する意思決定のプロセスの分析
大熊恵子（東京武蔵野病院）、他
- 2 済生会鴻巣病院での6ヵ月間退院患者218名のデータより
—H12.4.1～9.30退院の長期入院患者の独立への働きかけ—
阿部和枝（済生会鴻巣病院）
- 3 地域生活を促進・維持するための急性期治療病棟における治療・看護ケア
—退院後フォローアップを通して—
宇佐美しおり（熊本大学医療技術短期大学部）、他
- 4 デイケアに通所する精神障害者の生活満足感に関する研究
松原美織（東京医科歯科大学大学院）、他
- 5 地域で生活する精神分裂病患者の生きがい
天野敏江（静和会浅井病院）、他
- 6 精神障害者への訪問看護に関する一考察—地域での連携が困難だった一例を通して—
美齋津聡美（多摩たんぼ訪問看護ステーション）、他

第7群 精神看護一般

- 1 精神病院の不祥事と看護者の専門性—過去の報道と判例などからの考察— その1—
藤野邦夫（新潟大学医学部保健学科）、他
- 2 精神病院の不祥事と看護者の専門性
—過去の報道と判例などからの考察— その2—看護管理者の課題—
藤野ヤヨイ（新潟青陵大学看護福祉心理学部）、他
- 3 看護体制変更と医療事故の関連について
大矢幸子（東京医科大学病院）
- 4 高度救急救命センターに搬入された薬物による自殺企図者の特徴
鈴木英子（杏林大学保健学部）、他
- 5 精神医学および精神看護学領域における自我・自己についての概念検討
—精神分裂病に関わる自我・自己— 遠藤淑美（千葉大学大学院看護学研究科）
- 6 精神分裂病患者の性にまつわる現象の一考察—性別意識の観点から—
内田直子（北海道医療大学看護福祉学部）

第8群 家族に関するもの

- 1 「要介護者による自己決定」の阻害に関する研究—要介護者自身及び主介護者の比較—
丸山昭子（北里大学大学院看護学研究科）、他
- 2 思春期問題のある子どもをもつ親への支援に関する研究
田上美千佳（東京都精神医学総合研究所）、他
- 3 精神病患者の家族がとる求助行動の特徴—求助行動の要素について—
野中邦子（おくら会藤戸病院）
- 4 精神分裂病をもつ家族への保健婦の援助に関する研究—初回相談から関わった事例を中心に—
新村順子（東京都精神医学総合研究所）、他
- 5 精神障害者の家族を対象とした小集団支援に関する検討 第1報
—家族間の相互交流の場面分析からその意味を探る—
佐久間えりか（北海道医療大学看護福祉学部）、他
- 6 精神障害者の家族を対象とした小集団支援に関する検討 第2報
—交流場面に対する家族のかかわり方の変遷に焦点をあてて—
菊地みさき（北海道浦河保健所）、他

第9群 看護学生・看護教育に関するもの

- 1 精神病院の一日見学実習の効果について—イメージの変化を中心に—
渡邊尚子（千葉県立衛生短期大学）、他
- 2 精神看護実習の評価および実習の難しさについての検討
長谷川博亮（宮城大学看護学部）、他
- 3 精神看護実習に携わっている臨床指導者の「とらわれ」と自己解放
—グループワークにおける肯定的なサポートを通して—
佐伯恵子（大阪府立看護大学）、他
- 4 学科選択とYG性格検査・自己同一性達成状況との関連
宮崎徳子（福井医科大学看護学科）、他

5 看護者のユーモアの使用とユーモアセンス

6 埼玉県内精神病院における看護職員研修の実態と課題
中西陽子（金沢大学医学部保健学科）、他
天谷真奈美（埼玉県立大学）、他

12:30-13:30 昼食

13:30-14:00 第11回 日本精神保健看護学会・総会

[弥生記念講堂]

14:10-16:10 シンポジウム

[弥生記念講堂]

「日本におけるリエゾン精神看護の可能性」

シンポジスト 野末 聖香（横浜市立市民病院）
川名 典子（聖路加国際病院）
池田 明子（北里大学）
堀川 直史（東京女子医科大学）

《注意事項》

- ・大学付近には、お食事処はあまりございません。2日目にお弁当とお茶の販売を致します。予約の必要はありません。当日の案内にてお買い求め下さい。
- ・飲食は看護学部校舎のみでお願いいたします。
- ・大学構内は禁煙となっております。喫煙なさる方は所定の喫煙場所をお願いいたします。

平成13年度総会・学術集会・懇親会の申し込みについて

平成13年度総会、第11回学術集会の「参加申し込みハガキ」と「振込用紙」が同封されています。総会・学術集会に参加される方は、同封の「振込用紙」にてご入金の上、「参加申し込みハガキ」（総会を欠席される方は、必ず委任状に署名捺印して下さい）を学術集会事務局まで5月11日（金）までにお送り下さい。学術集会参加費は、会員5,000円、非会員7,000円、学生3,000円となっております。懇親会に参加される方は、懇親会費3,000円も同時にお振込み下さい。

なお、振込用紙は**お一人様1枚**でご使用頂き、通信欄の該当箇所必ずチェックをして下さい。専用の振込用紙がない場合は、郵便局備え付けの用紙にて「00150 - 2 - 549831 日本精神保健看護学会・学術集会」宛に、会員・非会員・学生、懇親会参加の有無を明記の上、合計金額をお振込みください。また、学会当日は振込領収書の控えをご持参下さい。

編集委員会からのお知らせ

学会誌の投稿締め切り日はこれまで10月15日でしたが、このたび理事会の承認を得て、次年度の学会誌第11号より**投稿締め切り日を9月10日に変更いたします。**
5月に発行予定の学会誌10号巻末に掲載しております投稿規定をご覧のうえ、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

学会からのお願い

4月になり会員の皆様の中には、所属先や住所を変更される方もいらっしゃるかと思います。現在すでに、宛先不明のために学会誌やニュースレターをお届けできずにいる会員の方がおり、所属先や住所を変更される際には、必ず下記の学会事務センターまでご連絡を下さいますようお願いいたします。近年中に変更された方もこの機会にご確認下さいませ。
尚、入会手続き、学会誌のバックナンバーのお求めについても下記の学会事務センターにて受け付けております。

日本精神保健看護学会事務所：〒113-8622 文京区本駒込5-16-9

財団法人 日本学会事務センター

TEL 03-5814-5810

FAX 03-5814-5825

（編集委員：田中美恵子、中川幸子、川添由紀、若狭紅子、菅原とよ子）

第11回学術集会ワークショップ案内

1) 体験グループ

[担当] 武井麻子、小宮敬子

このワークショップは、本学会が設立されて以来、毎年開催されています。ただ、参加者が輪になって語り合うだけのものですが、毎年、違った発見があります。看護教育のなかでは頭で考え、知識を教えますが、身体で考え、感じるトレーニングはあまりやられていません。看護という仕事は、何よりも看護者がケアの道具となる以上、看護者の感情や身体が生き生きとしていなければなりません。この体験グループは、自分と対話し、他者と出会うことを通じて、臨床の場で凍りついた看護者の心と身体を解きほぐし、何かを発見していこうというものです。

2) 「再構成」の有効な活用方法

[担当] 池田明子、伊藤文、柴田真紀

だれが、なぜ、何のために「再構成」するのか。その目的によって「再構成」の活用方法は大きく異なります。今回は実習指導に関わる場面を取りあげ、学生、指導者、教員、臨床スタッフ等との関係についての「再構成」を題材に、援助者としての自己活用の技に関心のある人たちとのグループワークにより学びを深めたいと願っています。なお定員は20名以内。1グループ10名前後のメンバーで、全員が主体的に参加することが前提です。

3) 精神看護学の教育展開—実習記録について考える—

[担当] 瀧川 薫、堀 源治

今回のワークショップでは、精神看護学の知識や技術が実践される臨地実習において、大きな教育的位置づけを占めている実習記録が、まず学生自身が自己主張や存在を主張する場であり、また学生が思考を整理する場であること、さらに学生からの臨床指導者や教師へのメッセージが込められた場だということを踏まえ、記録物の質や量、実習記録と看護記録との関連性や整合性、倫理的配慮、記録指導は教師か臨床指導者かという問題などについて共に考えていきたいと思います。

4) 精神科事例検討会: 「女性に対して暴力行為を繰り返す精神分裂病患者へのアプローチ」

[担当] 平澤久一 [事例提供者] 塚本淳智、千田敬子

極度の引きこもり状態と自傷他害のため個室生活を送っている 27 歳、精神分裂病の男性患者の事例です。女性看護者同士の夜勤の際に暴力行為が顕著に見られ、現在無為好癖、感情表現に乏しく、暴力行為によって拒否・拒絶の意思表示を行う。母親を含む女性に対して攻撃性が強く出現している。この事例に基づき参加者の臨床体験をまじえ、こうした行動の精神力動的な理解と看護介入について活発な議論を展開し、検討したいと思います。

5) リラクゼーションの体験学習

[担当] 五十嵐透子

看護のさまざまな場面での介入の1つとして、看護教育への導入に、そして皆さん1人ひとりのヘルス・プロモーションのために、リラクゼーションについての体験学習をしてみませんか。今回で3回目になりますが、お互いに体験し合い、一緒に心地よい時間を過ごしませんか。人数は20名までを予定しています。Let's relax together!!

6) ナースによる心理教育グループの活用

[担当] 羽山由美子、水野恵理子、下枝恵子、鈴木利枝

今回2回目になりますが、心理教育グループの実践について、プログラムの作成、教材準備、担当者の事前学習、プログラム立ち上げ、開催方法等、実際に運営するにあたっての具体的な事柄についてご紹介します。取り上げるプログラムは、1) 精神科急性期病棟における分裂病圏の患者を対象とする服薬学習グループ、2) 総合病院における外来通院中の血液疾患患者サポートグループ、の2種類です。

7) 効果的なカンファレンスを運営するために

[担当] 土屋 徹、中川幸子

精神科領域では現在、SSTが注目されています。しかし残念なことにマニュアル化した手順のみが先行しているように思います。SSTのようなグループアプローチは、日常行われるカンファレンスを効果的に運営することに共通する技法ではないでしょうか。今回、病棟や学生とのカンファレンスを楽しく進める技法を共有していけるようなワークショップを企画しました。参加者の体験や経験を材料にして、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

8) 精神科看護記録は開示に耐えられるか

[担当] 柴田恭亮、堤由美子、他

2年前、カルテなどの診療記録開示の法制化が、時期尚早として見送られた。それにもかかわらず、実質的なカルテ開示は、全国規模で急速に広まっている。最近では、いつ看護記録の開示請求がされても不思議ではない状況である。精神科看護記録は、はたして開示に耐えられるだろうか。多分、大部分の看護者は、開示をためらうだろう。それは「何故?」。ワークショップでは、話題提供された看護記録の現状をもとに、その「何故」を全員で追求してみたい。

9) ナースのためのストレスマネジメント

[担当] 福田紀子、片平好重

看護職の精神的問題が「バーンアウト症候群」として取り上げられてから久しく、医療を取り巻く状況がますます複雑化する中、看護者は様々なストレスに直面しており、メンタルヘルスの向上は重要な課題の一つです。対人ケアという特性から、質の高いケアを提供するためには看護者自身が精神的に安定していることが大切です。私たち自身のメンタルヘルスのために個人で、そして職場においてどのような取り組みができるのか、ストレスマネジメントについて考えてゆきます。

会場案内

会場案内

東京女子医科大学
東京女子医大病院
東京女子医科大学
看護学部
月桂寺
商店
仲之町
女子医大通り
シビレ地
花屋
新宿河田町郵便局
地下鉄 曙橋 A2出口
合羽橋

大久保通り
外苑東通り
あけぼのばし通り
住吉町
至四谷

若松町
市ヶ谷柳町
河田町
地下鉄大江戸線 若松河田駅

弥生記念講堂

*学会の受付は弥生記念講堂入口で行います。ご注意ください。

交通案内

<地下鉄利用>

- 都営新宿線 曙橋駅下車 徒歩 10分
- 都営大江戸線 若松河田駅下車 徒歩 5分

<都バス利用>

- 新宿駅西口より 抜弁天経由 東京女子医大行 東京女子医大下車 (新宿駅より約 20分)
- 新宿駅西口より 医療センター経由 東京女子医大行 東京女子医大下車 (新宿駅より約25分)
- 新宿駅西口より 秋葉原駅行 若松町下車 徒歩 5分
- 高田馬場駅より 九段下駅行 東京女子医大下車
- 渋谷駅より 原宿駅・千駄ヶ谷駅・四谷三丁目駅経由 早大正門行 女子医大下車